

# かなざわ 5月号

平成31年4月26日

横浜市立金沢小学校

金沢区町屋町26-26

☎781-2401



## 新しい出会いに寄せて

副校長 鈴木 和枝

大人になって、教員となって、自分はこれまでかなりの回数の4月を学校という場で迎えてきました。そんな自分でも、「新しい学校」「新しい出会い」を前に感じる気持ちというものは、期待と不安が入り混じった落ち着かない感情が波のように寄せては返す…そんな4月の初めでした。でも「きっと1年生に入学した子どもたちも、新しい学年、クラスになった子どもたちも、見えない明日を前に、みんな同じ気持ちなんだろうなあ。」と思うと、今しか感じられないこの気持ちが愛おしいようにも思えたのでした。

さて、金沢小学校に着任して1ヶ月が経とうとしている今、4月の最初に感じていた気持ちは明らかに変わってきました。そしてその変化は、金沢小の子どもたちがもっている力におおいに助けられているように思います。たとえば、出張の帰りに学校までの道を歩いていると、放課後自転車に乗って走っている子たちが実に大きな声で遠くからあいさつをしてくれます。下校時に校門で「さようなら」と声をかけると「さようなら。ところで僕の名前覚えている？」と、あいさつだけでなく話しかけてくる子もいます。たしかに、先日廊下で話し、名前を尋ねた子です。他にも名前を尋ねた子はいるのですが、中には「僕の名前は〇〇。家の人がかんな風になってほしいと思って付けたんだって。」と答えてくれた子もいました。さらに、中休みに、「来て来て。こっちに宝箱があるんだよ！」「僕が見つけたんだよ！」と自分たちが見つけたものを自慢げに教えてくれた子たちの目は、エネルギー溢れる元気な子どもの目そのものでした。

そうなのです。金沢小の子どもたちは、実に自然体。温かくてありのままという印象です。だから、一緒にいて、話していてこちらまで「もっとかかわりたい」楽しい気持ちになるのです。きっと、金沢小の子どもたちは、自分たちが内包しているその良さや強みには気付いていないだろうし、意識もしていないと思います。こう書いている私も、小学生の頃には自分の良さなんてじっくり考えもしませんでした。でも、金沢小の子どもには、ちょっとやそっとでは身に付かない「目で見ることではできなくても確かに育まれている良さ」があります。

今日も明日も明後日も、その「目で見ることではできなくても確かに育まれている良さ」に自信をもち、一人ひとりが輝いてほしい。そして、私はそんながんばる子どもたちを応援したいです。